

ポリマー材料表面上の水電極間の水滴の挙動

○兼徳 慧・栢 健一・吉留聖人（鹿児島高専）・迫田達也・三宅琢磨・出口達也・田平耕成（宮崎大）

絶縁碍子の外皮材料として、日本では陶器やセラミックなどが多く使われている。一方、米国を中心としてシリコンやポリマーなどが主流となっている。シリコンやポリマーなどは陶器やセラミックなどよりも軽量で取り扱いやすいというメリットがあるが、シリコンやポリマーなどは日本での実績が少ない為、実用化には至っていない。今回の実験では、シリコンゴム表面上の水電極間に0-20[mS/cm]の導電率を変化させた水滴を人工的に形成させ電圧を印加しフラッシュオーバーが起きるまでの過程について調査、観測したものである。